

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

99.9.27 No.5023

全力で20周年記念大会へ

10月3日10時~4日12時 労働者福祉センター・大ホール

「ガイドライン体制」下の労働運動の課題

闘いの構え直しを

ガイドライン関連法の成立は、これまでの社会のあり方を全てにわたって否応なく一変させるものだ。戦争政策が社会と国民生活の全てをのみ込んでいくような状況が始まるうとしている。ガイドライン関連法の制定で、戦争という名のパンドラの箱が、こうして開こうとしているのだ。

こうした情勢は、われわれにこれまでの労働運動のあり方の根本的な「構え直し」を求めている。われわれは経済成長を前提とした労働運動のなかで育ち、その経験しかもっていない。しかし支配階級は今、憲法28条や労働三法のもとで一定の戦闘的労働運動が「保障」されるという関係を打ち破り、労働運動を解体・絶滅の対象として位置づけ直そうとしているのだ。

階級的団結の強化

今われわれに問われているのは、「平和」ではなく「戦争」が日常化し、国家的大リストラ攻撃や一切の権利剥脱が労働者に襲いかかるような時代に向って果敢に闘いを展開し、例えば直接の成果がなくとも、労働者の階級的団結が強まり、日々戦列を拡大していくような新たな労働運動のあり方を確立することだ。すべての闘いの総括の基本を、労働者の階級的団結の強化・拡大にすえざるということである。あの困難な状況のなかで、分割・民営化攻撃に対して二波のストライキでたち向かって団結

労働運動の原則を

を守りぬいた動労千葉の経験は、現在の労働運動に問われている課題を先取りするものであった。

またこれからの労働運動は、否応なく、体制擁護派に転落し産業報国会化を深めてゆく勢力と、それに抗して階級的労働運動の強化・発展をめざす勢力の激しい攻防戦として展開されるという構図にならざるをえない。労働者の意識における分岐、労働運動の分岐を恐れず、それと粘り強く闘うなかからこそ、真の階級的団結が生まれるということ。これを肝に命ずることが重要だ。

だからこそわれわれは、企業防衛主義と決別し資本と労働者は非和解的な関係にあるという立場に立ちきつた運動をめざすこと、体制擁護運動ではなく「資本主義にNO」と言える労働運動」をめざすこと、国益主義と決別し、反戦政治闘争を労働組合の基本的課題としてすえざること、体制内労働運動ではなく体制変革をめざすことなどの原則を、あいまいにすることなく訴えつけてきたのだ。

戦争協力拒否闘争

さらに、ガイドライン関連法の成立によって、戦争協力拒否の闘いが、労働運動の重要な課題として浮上している。戦争協力拒否闘争は、強靱な団結がなければ闘えない課題だ。ガイドライン関連法が発動され、自治体や民間の戦争協力員がはじまった場合、それに抗する闘い

は、密集した反動と対決しながら、場合によれば1年12年という長期にわたる闘争を貫いて戦争をストップさせるという困難な闘いにならざるをえない。柔軟かつ強靱な戦略・戦術、そして政治性が問われる闘いだ。順法闘争やストライキ、そして「拒否から阻止」への戦術転換その過程での分離・独立闘争など、三里塚・ジェット闘争の教訓が、これからの闘いのなかで生きてくることは間違いない。

国鉄闘争の課題!

今国鉄闘争に問われているのは、闘いの路線・構えの根本的な問い直しであり、正確な時代認識だ。国労の仲間たちにも呼びかけ、階級的労働運動の原則にたつた闘いの路線の再確立をめぐさなければならぬ。また、はつきりと見すえなければならぬことは、国鉄労働運動の解体攻撃とは、つきつめて言えば《1047名闘争の解体》と《動労千葉の解体》の二点にあるということだ。動労千葉にとつても、新たな飛躍が問われている。

信頼し、あくまでもそこに依拠した確固とした闘いの路線・方針を再確立しなければならぬ。

第二に、国鉄闘争の現在の局面を、情勢全体との関係のなかで真正面から見すえる必要がある。ガイドライン関連法案が成立し、政府公認のもとで国家的大リストラ攻撃が全産業の労働者を襲おうとしている情勢のなかで、国鉄闘争も否応なく一層非和解的な関係に入っている。

第三に、闘いの路線をめぐる分岐・分裂をあいまいにしてはならないということだ。闘いの道にけわしい壁がたちはだかったとき、戦列の内部から様々な動揺や意識的な屈服が生じるという問題は、労働運動にとつて避けて通ることのできないものだ。これをあいまいにしたとき、闘いが内部から崩壊するのは労働運動の歴史の重要な教訓だ。

27回大会の成功を

第27回定期大会(結成20周年記念大会)の成功をとおして、時代に通用する新たな世代の動労千葉を創りあげよう。何よりも組織の強化・拡大は労働組合の生命線だ。強制配転粉砕闘争など、重要な課題が山積している。全ての組合員の力を結集し、新たな運動の発展をめざそう。この一年われわれは三つの選挙闘争の勝利、20周年記念の取り組み、春闘や反合同闘争、そしてガイドライン反対闘争など、いつもの年の二倍、三倍の闘いをやりぬいてその基礎を築いた。自信と確信をもって進もう。